

です。その異なった何かが、「行」にも「列」にも（1回ずつ）現れているのがラテン方阵です。

3の位

1	2	0	1 ↔ A	A	B	C
0	1	2	2 ↔ B	C	A	B
2	0	1	0 ↔ C	B	C	A

1の位

0	2	1	0 ↔ A	A	B	C
2	1	0	2 ↔ B	B	C	A
1	0	2	1 ↔ C	C	A	B

せっかくラテン文字に置きかえましたが、これからは主に数字を用いることにします。ただし、数字を置きかえると同一になるものは、同じラテン方阵とみなします。次の左図と右図は、同じラテン方阵というわけです。このため（置きかえることで、右図のように）、**1行目**を「0、1、2、……」に統一する（**正規化**する）ことにします。

3の位

1	2	0	1 ↔ 0	0	1	2
0	1	2	2 ↔ 1	2	0	1
2	0	1	0 ↔ 2	1	2	0